（３）大用中学校

学　　校　　長　武田　博文
校内研究代表者　田村　恵助

１．研究主題　　「　生徒の思考力・判断力・表現力を高める教育の創造　」

（１）知育
　◎教科指導の充実～次期学習指導要領への転換「資質・能力の育成」～
　◎継続的かつ計画的な学習姿勢の育成
　　○授業改善……計画的な授業研究並びに講師の招聘、学習規律の徹底，ユニバーサルデザインに基づいた授業
　　○個に応じた学習支援……各種テストの実施とその結果の活用、補習の充実、教科面談
　　○家庭学習の充実……授業とのサイクル化、家庭との連携

（２）徳育
　◎基本的行動様式の確立及び人権意識の育成～自尊感情の向上～
　◎キャリア教育の充実～将来の展望や目標を持った生徒の育成～
　　○道徳教育の充実……道徳参観日の継続、道徳や特活の計画的な実施（全校道徳等）
　　○定期的な校内支援委員会の実施……課題や支援方法の共有、SC・SHL・SSW等の積極的活用
　　○人間関係力の育成……総合的な学習の時間（ふるさと教育）の充実、生徒会活動の充実

（３）体育
　◎基本的生活習慣の確立
　◎体力の維持及び向上
　　○専門部（生徒会）活動の充実……定期的な調査及び分析
　　○部活動の充実……朝の体力づくりの継続、地域のクラブとの連携

２．主題設定の理由

全校生徒がわずか１５名の小規模校である。素直で真面目な生徒が多く自尊感情や主体性が年々高まっているが、幼少の頃より生活を共にしていることから、立場が固定化していたり、馴れ合いの関係になっていたりと、立場や場面を考えた言動や社会性に課題がある。また、学習の定着や活用することにおいて充分とはいえない部分があること、特に語彙が少なく読解力や話すこと、書くことに弱さが見られる。そのため、国語科や総合的な学習の時間、道徳科を基軸とした教育活動を仕組み、様々な体験を通して、生徒の思考力・判断力・表現力を高めていこうと研究主題を設定した。

３．研究の進め方と方法

主な研究内容
　○研究授業・公開授業の実施
　　・全員が研究授業を行う。
　　・道徳の研究授業を学期に１回行う。
　○基礎学力の向上に向けての取り組み
　　・学習サイクルの確立　・夕学習の取り組みと確認　・NIE 活動の取り組み
　　・講師を招聘した研修　・３分間スピーチの継続
　○大用小学校と連携しての研究協議
　　・小中合同研修会（ふるさと教育：講師招聘）
　　・小中合同研究授業（言語技術スキルの活用）
　○生徒理解・指導方法の工夫
　　・各アンケート（授業評価など）やテスト分析をもとに、授業・指導の改善へつなげる。
　　・人権主任を中心に、学校生活アンケートやＱＵの実施、分析を行う。
　　・生徒情報交換と取り組みを共通認識する。（指導の方向性をそろえる）

４．今年度の主な取り組み

（１）校内研修

○校内研修の充実

・小中連携の校内研を３回（４回の計画のところ１回は休校に伴い中止）実施し、授業交流や児童生徒の理解(全国学力学習状況調査及び高知県学力定着状況調査の結果の共有など)に努めた。夏季研修会では講師を招聘して、ふるさと教育に資するため「大用の歴史と地理」について研修を行った。

・毎回、生徒の情報交換を議題の中に設定し、取り組むべきことを確認した。
（個人持ちの生徒理解ファイルを作成。）

・研修会で学んだことを情報交換し、指導に生かした。

・PDCA サイクルを意識した校内研となるよう計画した。

○授業改善

・研究授業の事後協議は西部教育事務所の支援訪問（３回）を活用し、全教職員で行った。

・学期に１回授業力チェックシートを共通して行い、結果を分析し授業の改善点や以後の取り組みを確認することで、授業改善・授業力向上に役立てた。

・各教科において、積極的に各種コンクールや検定へ出品、挑戦させることで、授業改善(授業計画や授業の質)へとつながった。

（２）仲間づくり

○人権教育・道徳教育の充実

・人権集中プランを実施（１１月）した。

・人権参観日・道徳参観日（全校道徳)・人権作文発表会を実施した。

・Ｑ－Ｕ（年２回）や学校生活アンケート（年３回）の実施と分析を行った。

・講師を招聘して人権教育の研修会を行った。

○学校行事

・生徒の活動する場面をできるだけ多く設定し、充実感・達成感を味わわせるとともに、場面場面でリーダーの育成を行った。

・他との関わりをもつ場面を設定した。(小中連携[ＮＩＥ]・ふるさと教育・校外での体験学習)

（３）学力の向上

○各授業

・発問の工夫をし、生徒主導で行える授業や、意見・考えを言う場面設定を意識した。

・授業のめあてを明確にし、振り返りを行うことを徹底した。

・少人数授業の研究

・授業力チェックシートをもとに授業改善を行った。

・アクティブラーニングの視点を取り入れた授業に努めた。

・期末テスト週間の放課後に学習会を実施した。

・３年生は１２月より放課後学習会を実施し、入試に向けた対策を行った。

○学習サイクルの確立

・授業と家庭学習のサイクル化を図った。(予習と復習)

・担任と教科担当で確認し、宿題の未提出者はその日のうちにやり切らすことを徹底した。

・生徒理解をもとに個に応じた指導を行った。

○夕学習

・基礎学力の向上を目指し、終学活前に 10 分間学習の時間を設定した。

・数学（基礎問題）と書く力をつけるための国語（高知新聞の小社会を活用しての２行作文）に特化して行った。

○長期休暇中の取り組み

・部活動日に学習教室を設定し、生徒の学びを継続させ、質問に応じやすい環境を整えた。

○NIE 活動

・切り抜いた新聞記事の感想を書く活動と(NIE ノート)、見出しを考える活動を隔週で行った。

・学校新聞づくりコンクールへの継続的な参加。

（４）思考力・判断力・表現力の向上

〇NIE 活動及び学校新聞・地域情報誌づくり(ふるさと教育)

・各学年２グループに分け、それぞれが設定したテーマについて地域交流会等で聞き取りを行ったり、各体験学習からの学びをもとにしたりして新聞を作成（高知新聞の出前授業も活用）した。２学期に開催した小中新聞発表会で優秀賞に選ばれた作品を学校新聞コンクールに応募した。時間的な関係もあり地域情報誌は学校新聞を基に編集して第３号を発行した。

〇特別活動の充実

・それぞれの活動(専門部,学級活動等)で役割を持たせ、生徒が活躍できるように仕組んだ。

〇生徒朝礼

・原則毎水曜日に執行部の進行で行った。

・表現力を高める場（専門部の発表・3 分間スピーチ）と諸指導の場として活用した。

５．今年度の成果と課題

（１）成果

・昨年度に続き、生徒の主体性の向上に効果的であったと思われる取り組み[小中連携(新聞発表会,読み聞かせ)、全校道徳、生徒朝礼、月 2 回の専門部、キャリアシートの活用など]を継続させることができた。

・小中合同の校内研をほぼ計画通りに実施できた。特に、小中合同でふるさと教育の研修を行なえたことは良かった。

・研究授業を全教員が行うこと（３回は指導主事を交えての事後研）ができ、生徒の思考を活用した授業改善につながった。

・毎回の校内研修や日々の中で、生徒の情報交換を常に行うことにより、全教職員の指導の方向性が定まった。生徒理解ファイルが SHL や SC との生徒の情報交換に役立った。

・家庭学習については、全生徒が一定量を行なうことができている。また、各生徒に対して教科担任がきめ細やかな指導を行なうことができている。

・道徳の教科化への適切な取り組み（全校道徳を含み、３回の授業研究）が行えた。

（２）課題

・カリキュラムマネジメントを軸にした教育活動の展開。

・教科間連携を意識した校内研の実施及び充実。（９名中４名が兼務校への移動で時間調整が難しく、時間割中に教科間連携の時間設定ができず、全校研での研修で対応したことより）

・TPO を考え言動できる生徒の育成。

・生徒会活動の計画的な実施と自治的な活動を育むためのさらなる活性化。

・学力の定着状況に応じた生徒への効果的な指導方法の研究。